

ヒドロキシイソキサゾール粉剤 タチガレン粉剤	取扱メーカー： 三井アグロ、ホクサン 原体メーカー： 三井アグロ
成分： ヒドロキシイソキサゾール〔イソキサゾール系〕……4.0%	性状： 類白色粉末45 μ m以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

●成長調整剤として植物体内にあるオーキシンの共力作用により稲の育苗ではムレ苗の防止、根の生育促進、移植時の発根及び活着促進などの作用がある。

●生理活性効果は、特に不良環境下で発揮され、低温による稲の登熟低下防止効果も認められている。

●土壌の種類やpHなど土壌条件により効果が左右されにくく、安定した効果を示す。また、土壌中での移行、流亡等が極めて少い性質をもっている。

●肥料や他の農薬との混用や近接処理ができる。

●種もみは種時の施用は苗立枯病の防除と同時に稲苗の根の育成を促進し、間接的には健全稲苗の育成及びムレ苗の発生防止を目的とする。

●移植時期の温度が低い場合などには発根活着促進に効果がある。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈稲箱育苗〉

●粉剤と液剤を体系で処理するのが効果的である。

●は種前床土に粉剤を混和する。

●は種後2週間頃に液剤を灌注する（中苗では育苗後期の健苗確保のため特に必要である）。

●移植前1～3日に液剤の2回目の灌注をする。

●設置床に粉剤を表土混和することにより好結果の事例がある。

●土壌pHはあらかじめ5前後に調整しておくとも一層有効である。

●黒ぼく土壌にはやや多めに、微砂の多い土壌や砂土では少なめに使用する。

●床土代替資材に対しても有効である。

●ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均一によって起こるムレ苗(生理的な急性萎凋障害)に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用する。

●稲の苗立枯病防除、根の生育、発根促進に使用する場合、使用量が多すぎると初期生育が一時抑制される場合があるので、使用量を誤らないようにする。

●稲の育苗期間が長くなると(たとえば中苗育苗)効果が低下するので、移植前に活着促進に有効な薬剤との組み合わせる。

【薬効・薬害等の注意】……………

●粒子の大きさが著しく不揃いな培土では、薬剤を土になじませ床土全体に混和が十分均一に行われるよう注意する。

●過酸化カルシウム剤に添加して使用する場合は、十分混合して種もみに湿粉衣する。また、過酸化カルシウム剤の注意事項を厳守する。

●適用作物(稲)の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。

●カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名 又は使用目的	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサゾール を含む農薬の総使用回数	
稲 (箱育苗)	根の生育促進 移植時の発根 及び活着促進 ムレ苗防止	育苗箱 *1 箱当り 4 ～ 8 g	は種前	1 回	育苗箱土壌 に均一に混 和する。	3 回以内 (移植前の土壌混和は 1 回以内, 移植前の土 壌灌注は 2 回以内)	
	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ビシウム菌)	育苗箱 *1 箱当り 3 ～ 6 g					
稲 (畑苗代)	根の生育促進 移植時の発根 及び活着促進 苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ビシウム菌)	50 ～ 100 g / m ²					
稲 (折衷苗代)	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ビシウム菌)						
稲 (湛水直播)	根の生育促進に よる苗立の安定	乾もみ重量の 3 %			過酸化カル シウム剤に 添加して種 子に湿粉衣 する。	1 回	
てんさい	苗立枯病	250 ～ 500 g ／ 10 a 分の床土 (約 400 kg)			土壌混和	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以 内, 育苗土壌への混 和は 1 回以内, 灌注 は 3 回以内)	
すいか		50 ～ 75 g ／ 床土 50 ℓ	は種時		育苗用土壌 に均一に混 和する。	2 回以内 (育苗土壌への混和 は 1 回以内, 苗床へ の灌注は 1 回以内)	
ほうれんそう	立枯病 根腐病	40 kg / 10a	は種 3 日前 ～ 直前		全面 土壌混和	1 回	
たばこ	舞病	5 kg / 10a	移植前	—	畦土壌 表面処理	—	

* 育苗箱は 30 × 60 × 3 cm, 使用土壌約 5 ℓ